

## 八王子市夢美術館 10 年の取り組み

—逆風の環境を乗り越えて築いた信頼と実績—

八王子市夢美術館館長 伊藤 由美子

### はじめに

八王子市夢美術館（以下、「夢美術館」という）は 2003（平成 15）年 10 月 18 日に開館し、2013（平成 25）年秋に 10 周年を迎えた。これまでの来館者数は 35 万 2,983 人にのぼり、近年は 1 年間でおおむね 3 万 6,000 人ほどが来館している。

夢美術館が入っているビュータワー八王子は、鉄筋コンクリート造の地下 2 階、地上 29 階の再開発ビルであり、夢美術館は、その 2 階および 1 階の一部を使用している。1 階から 4 階には夢美術館を含む商業施設や事務所などが入り、5 階以上は全てマンションタイプの住居となっている。JR 八王子駅からは徒歩で 15 分、京王線の京王八王子駅からは徒歩で 18 分という位置に立地している。これは、市内にある他の美術館と比べて、立地の面では恵まれていると言えよう。

本稿では、夢美術館の指定管理者という立場から、改めて夢美術館が歩んできたこの 10 年を振り返ってみたい。



夢美術館の外観

### 1. 夢美術館の運営体制と基本方針

本章では、夢美術館が担っている役割と、それを果たすために必要なことに触れたうえで、運営に関する体制や基本方針について述べる。

#### （1）夢美術館の役割等について

夢美術館は、市民が気軽に美術作品に触れて親しめる「まちなかのオアシス」を目指し、また地元の事業者や美術愛好家たちの期待を背負った美術館としての役割を担っている。

八王子市は、夢美術館の設置目的を「優れた美術品を身近なところで鑑賞できる場を提供することにより、市民の心豊かで潤いのある生活に寄与するとともに、芸術文化の振興を図るため、八王子市夢美術館を設置する」（八王子市夢美術館条例第 1 条）としている。夢美術館では、この目標に沿って、管理運営に関する業務や様々な事業を展開してきた。

夢美術館が、その設置目的にあるように優れた美術品を身近なところで鑑賞できる場を提供していくためには、常設展だけでなく特別展を積極的に開催する必要がある。そして、その際には他の美術館との間で所蔵作品を貸し借りし合うこともある。夢美術館に収蔵作品を貸与してくれる他の美術館からすれば、自館の収蔵作品が会期中どのように扱われ、展示・保管され

るかという点は、最大の関心事である。後述するように、夢美術館ではその期待を裏切らないように最大限の努力を行っているが、同時に作品の借用先の美術館の学芸員たちと良い人間関係を築き、お互いを信頼し合うことを心がけている。もちろん、これは一朝一夕には成立し得ず、長いお付き合いが必要である。このため、夢美術館は全国美術館会議や全国造形教育連盟に加盟し、美術館連絡協議会とは連携している。学芸員や職員が多摩ミュージアムネットワークや東京ぐるっとパス実行委員会などに参加することにより、ネットワークを通じて夢美術館の存在をアピールしている。

## **(2) 指定管理者制度について**

夢美術館が開館した当初は、八王子市生涯学習部（当時）が所管し、管理運営を八王子市学園都市文化ふれあい財団へ委託する形であった。その後、2006（平成18）年からは同財団が指定管理者となっている。

指定管理者制度とは、様々な公の施設に民間の能力を活用することにより、市民のニーズにより効果的かつ効率的に対応し、住民サービスの向上や経費削減などを指すため、2003（平成15）年の地方自治法改正の際に設けられた制度である。これにより、全国の公立美術館や博物館、図書館等で同制度が導入されたところが少なくない。

しかし、その一方で美術館や博物館の管理を指定管理者が行ううえでは、様々な課題が存在している。地方自治法第244条の2第5項では、指定管理者の指定について「期間を定めて行うものとする」とあり、一般的には3～5年で美術館や博物館等の指定管理者が交代する可能性がある。このため、本来ならば継続的に行うべき収蔵品の調査研究などがままならなくなり、寄贈者との信頼関係を築いていくうえでも制約が課される恐れもある。現に、他自治体では指定管理者が変わったため、美術館に作品を寄託していた所蔵者が「保護・管理の体制に問題がある」として作品を引き上げた例もある。

## **(3) 運営に関する4つの基本方針**

夢美術館では、市民に開かれた美術館、生活に身近な「くらしのなかの美術館」として地域と結びついた個性ある活動を展開していくため、常に市民に美術を身近に感じてもらい、満足してもらえる展覧会を開催することを目標とし、4つの基本方針を掲げている。

### **①基本方針1：魅力ある展覧会の開催**

夢美術館では、3つのテーマに基づいて多彩な特別展を開催している。

#### **【テーマ1：内外の優れた美術品の紹介】**

近代洋画展や海外作家展、陶芸展など評価が確立した作家や作品等の展覧会を行う。

#### **【テーマ2：現代の息吹と未来への展望】**

現代作家展、新しい芸術表現としてアニメーションの紹介、絵本展等を行う。

#### **【テーマ3：地域性と普遍性】**

地元ゆかりの作家や美術を全国へ向けて発信していく展覧会を行う。収蔵作品を活用した展覧会や、地元ゆかりで国内トップクラスの作家の展覧会、市民公募展、市内の美術大学と連携した企画等を行う。

### **②基本方針2：特性を活かした関連事業**

八王子市は多くの大学が集まる学園都市であり、美術大学や美術専攻科を持つ大学も立地している。夢美術館は、八王子市のそうした特性に着目し、美術大学との共催という形で展覧会などを定期的で開催してきた。

例えば、多摩美術大学との共催で彫刻展を毎年行い、2013（平成 25）年には 10 周年の節目として新たな企画「サウンドアート」を立ち上げた。また、東京造形大学との共催による「フラッグギャラリープロジェクト」も継続している。このフラッグギャラリープロジェクトは、学生がデザインしたフラッグ（旗）の中から優秀作品を選び、JR 八王子駅から夢美術館に続く西放射線ユーロードに飾るというものである。学生と地域をアートという架け橋で結ぶこの企画は、西放射線ユーロードの商店会の協力も得て毎年開催されており、まちなかに立地する夢美術館の「くらしのなかの美術館」という特性を活かした企画と言える。

### ③基本方針 3：来館者数の増加とまちづくり

夢美術館では、市民や地元の商店会、市内の他の美術館と連携したイベントを開催し、まちの賑わいの創出に取り組んでいる。また、10 年間で培った実績と信頼をもとに、全国各地の美術館や作品の收藏家から協力を得て、共催事業を実現させた。さらに、基本方針 2 で述べたような地元密着型のイベントを企画する一方で、全国的にも注目を集める旬の展覧会も開催し、「地域に根ざしながらも全国区」という美術館を目指している。

こうした取り組みを通じて、本市の内外における夢美術館の知名度を高め、来館者数を増やすとともにまちの活性化を図っている。

### ④基本方針 4：美術館としての適正な施設管理

夢美術館は、マンションを含む複合施設の中に位置している。そのため、美術品を管理するうえで様々な制約が課せられていることは事実である。しかし、そうした中でも工夫と努力によって美術館に適した除塵防黴を行い、收藏品の殺虫や殺菌処理、修復など適正な管理を実施している。これは、来館者の満足度向上はもちろん、收藏品の寄贈者や作品の借用先からの信頼を向上させるためにも重要である。

## 2. 施設管理上の課題と工夫

夢美術館は複合施設の中の美術館であるため、消火・空調設備や搬出入口など、美術品を收藏・管理する施設としての機能は、単独で立地する美術館に比べれば十分とは言えない。加えて、活動の基盤となる調査・研究のスペースも十分には確保されていない。ここでは、夢美術館における施設管理の状況について整理するとともに、この 10 年間、そうした課題にどのように取り組んできたかをまとめる。

### （1）周辺地域における案内表示の充実

夢美術館が入っているビュータワー八王子に行くには、JR 八王子駅の北口に降り、一直線に延びる西放射線ユーロードを歩いて八日町交差点を渡り、甲州街道沿いに西へ少し歩く。しかし、JR 八王子駅からの通り道である西放射線ユーロード等に夢美術館の案内表示が少ないことが課題である。満足度調査等のアンケートを行うと、他市からの来館者のみならず市民からも駅からの表示が「分かりにくい」との声が聞かれる。「そもそも、駅に何の案内もないのはおかしい」とのご指摘もある。夢美術館のフラッグを甲州街道沿いに掲げたり、西放射線ユーロードの商店街に展覧会のポスターを貼ってもらったりしているが、さらに夢美術館に対する市民の皆さまの認知度を向上させるとともに、全国から展覧会を見に来てもらうためにも、今後、関係所管とともに改善を図るべき課題であると認識している。

### （2）専有面積の小ささへの対応

夢美術館の専有面積は 1,275 m<sup>2</sup>であり、そのうち第 1 展示室から第 3 展示室が合わせて 440

m<sup>2</sup>を占める。他にも収蔵庫や事務室、機械室、倉庫、ホワイエ、ミュージアムグッズ販売コーナー、喫茶スペースなどがある。このように、再開発ビルの一角という限られた空間の中で美術館に必要なスペースを最大限確保しようとしているため、様々な課題がある。

まず、夢美術館には第1から第3まで3つの展示室があるが、主に特別展を行う第1、第2展示室と、主に収蔵品を展示する第3展示室の入り口が同じでそれぞれ独立していない。常設展のみを観覧したい人に対しては不便な面があるが、全ての展示室で特別展を行ったり、収蔵品と特別展を関連づけた企画を行うなどし、有効に使う工夫をしている。

また、倉庫が2 m<sup>2</sup>しかなく、書庫もないため、調査研究に必要な書籍、他館の収蔵品目録など、美術館として最低限必要なものやグッズの在庫の収納にも苦慮している。倉庫や書庫を設けることは喫緊の課題と言え、作品収蔵庫の許容量についても今後対処が必要となってくるだろう。

### **(3) 作品の搬出入に際しての配慮**

夢美術館には、展示品を運ぶための専用の搬出入口が確保されていない。展示替えなどの際には、他のテナントと車寄せを使う時間を調整し、駐車場は他の施設を間借りしている。搬入口からはマンション棟の非常用エレベーター等を使用する。だが、そうしたエレベーターはサイズがマンション仕様であり、展示物が大きい場合には載せることができない。そのような場合には、非常用の外階段から美術館内に人力で運び込むこととなる。

こうした状況が大きく影響するのは、他の美術館から作品を借用するときである。空調付きの美術専用トラックから館内まで、屋外での作品移動が認められなければ作品を借りることすらできないため、搬出入作業日は予備日を設けて天候にも配慮が必要となる。

### **(4) 温度・湿度の管理に関する試行錯誤**

夢美術館も、マンションであれば大規模修繕が考えられる10年が経過した。本来、美術品を扱う公共空間としての美術館では、作品に対しては温度・湿度を一定に保つ管理上の視点と、不特定多数の市民が来館する保健衛生上の視点の両方を満たさなければならない。しかし、夢美術館の空調設備は本来的に美術館仕様ではないことが、開館以来の課題となっている。

まず、作品保護の観点から館内の温度・湿度を一定に保つため、空調設備のメーカーに対して何度もプログラム修正を依頼した。その過程では、夢美術館が独自に温度や湿度のデータを細かくとるなどの試行錯誤もあり、作品の展示・収蔵に耐える環境を何とかつくりあげてきた。

### **(5) 室内の防火装置への対応**

夢美術館は複合施設の中にあるため、収蔵庫を除くすべての部屋にスプリンクラーが設置されている。美術館としてはこの点が大きな課題であり、仮に展示室内で高温が感知されると、スプリンクラーから水が噴き出して展示物が濡れてしまう恐れがある。そのことが作品の借用に際して問題となる。万一の火災の際のスプリンクラー対策としては初期消火に努めるしかないのが現状である。

### **(6) 天井の低さへの対応**

夢美術館の展示室の天井高は2.765mと、一般的な美術館に比べてかなり低い。これは、ビュータワー八王子がオフィス、一般店舗、住宅用として造られたことによるものであり、そうした建物に後から夢美術館が入ったためであり、夢美術館では天井高を少しでも確保するため、

あえて天井を貼らないという工夫を加えてはいるものの、ダクト等がむき出しとなってしまうため、展覧会の内容によっては雰囲気を損なう恐れもある。これについては、天井の低さも気にならないような質の高い展示を行うよう心掛けている。

また、十分な天井高がとれないということは、照明も位置が低くなり、照明の反射が目に入りやすく、来場者が展示物を鑑賞し辛くなる可能性もある。物理的な制約のため完全な解消はできないが、それだけに、展示物の位置や照明の当たり方には特段に気を配っている。

### **(7) 熱意と実績に裏打ちされた交渉**

ここまで繰り返し述べてきたように、マンション棟を主とする複合施設の中に入っている夢美術館の各種設備は、美術館として満足というには程遠いものである。

そのような環境にあっても、夢美術館はこれまで市内外の美術館から様々な作品を借用し、数々の特別展を成功させてきた。それはひとえに、作品の借用先である他の美術館のご厚意によるものだが、夢美術館の学芸員の熱意と、(1)～(6)までで述べた様々な工夫による環境整備の賜物でもある。

夢美術館が開館した10年前、他の美術館に作品の借用をお願いしても、空調の問題や水濡れの危険性等を指摘され、首を縦に振ってくれる美術館はほとんどなかった。しかし、夢美術館学芸員は、三顧の礼とあるように「3回目で了解をいただくこと」という姿勢で、粘り強く交渉した。これはすなわち、1回や2回断られたくらいでは引き下がらない熱意と誠意をもって交渉したということである。そうした努力と、これまで細心の注意を払って作品の展示や管理を行ってきた実績のおかげで、最近では少しずつではあるが交渉しやすい状況となりつつある。もちろん、様々なネットワークを通じて全国の美術館の学芸員と個人的なつながりを構築していったことも大きい。

## **3. これまでの事業実績**

夢美術館は、この10年間で様々な作品を収蔵し、さらに借用等による特別展を開催してきた。ここでは、収蔵に関する工夫について触れるとともに、主な特別展を振り返ることで、夢美術館の事業実績を整理したい。

### **(1) 収蔵品について**

#### **①常設展**

開館準備の段階で本市が所蔵していた美術品は約80点だったが、現在では約1,300点にまで増えている。収蔵品は常設展として作家ごとに展示したり、テーマを設けて紹介したりしている。また、特別展に合わせるなどして展示替えを行うだけでなく、時には「特集展示」として作家やテーマを絞った内容とし、企画性の高い展示を開催している。

#### **②寄贈者との信頼関係**

夢美術館は作品購入のための予算を持っていない。そのため、収蔵品の収集は寄贈に頼らざるを得ない。寄贈を受ける場合、最も重要となるのは人間関係である。美術作品についての取り扱い、調査・研究を行う際の作品に対する姿勢、寄贈を受けた後の寄贈元との密な連絡などが非常に大切となる。夢美術館の学芸員は、作家のご遺族や著作権者など、作品を寄贈してくださった方のことを第一に考え、信頼関係を築き上げることをモットーとしている。

収蔵作品が多くなると、色々なテーマに基づく常設展示が可能となり、企画に幅が出てくる。

また、良い収蔵品を持っていることで、他の美術館との間で作品の貸し借りが容易となる。主な寄贈作品は図表1のとおりだが、他にも平井一男、加山四郎、佐田勝、指田由米、原田直康など市外や市ゆかりの作家たちの作品の寄贈を受けている。

**図表1 主な寄贈作品**

作家名	作品の種類	寄贈の経緯と展示
城所祥	木版画	ご遺族から約600点に及ぶ作品の寄贈を受け、整理後に特別展や特集展示を行った。
清原啓子	銅版画	ご遺族から作品の寄贈を受け、特集展示を行った。
小島善太郎	洋画	ご遺族から寄贈を受け、さらに青梅市立美術館に預けていた作品なども寄贈された。
大野五郎	洋画	特別展の開催を機に、ご遺族から寄贈を受けた。
堀井英男	銅版画	ご遺族からまとまった数の作品の寄贈を受け、茨城県近代美術館所蔵の水彩画と併せて、巡回展となる特別展を開催した。
松本栄一郎	洋画	ご遺族から油彩画と素描の寄贈を受けた。

### ③収蔵品の調査・研究

展覧会を開催するためにも調査・研究は重要であり、その成果で小島善太郎展や城所祥展、大野五郎展等の図録を編さんしている。2013（平成25）年に開催した「前田寛治と小島善太郎—1930年協会の作家たち—」では、鳥取県立博物館の協力の下、新しい図録を編さんした。

### ④収蔵品の修復

夢美術館では、小島善太郎、鈴木信太郎、大野五郎など損傷を受けていた作品を修復し、展示に供せるようにした。寄贈を受ける作品は、多くの場合、虫の害やカビの被害によって傷みが激しく、展示するためには専門業者による修復が必要となる。また、当該の作品を夢美術館で収蔵するにふさわしいか否かの判断を下すため、美術資料収集選定委員会が設置されており、協議を経て寄贈を受けるかどうかが決められている。寄贈を受けて収蔵庫へ入れるにあたっては、他の収蔵品への虫害やカビの影響も考え、慎重に判断しなければならない。

## （2）特別展について

夢美術館では、「内外の優れた美術品の紹介」、「現代の息吹と未来への展望」、「地域性と普遍性」という3つのテーマを踏まえ、年間6本の特別展を行っている。開館から現在まで、特別展は計63本に及んでいる。その中から、主なものを年度ごとにまとめたのが図表2である。

**図表2 主な特別展**

開催日程	名称	入場者数	概要
<b>&lt;2003(平成15)年度&gt;</b>			
10/18-12/7	八王子市夢美術館開館記念展 「開けゴマ!」Vol.1 絵の夢	5,319名	「夢」をキーワードに、ユトリロ、マリー・ローランサン、シャガール、ルネ・マグリットなど著名な画家の作品を展示。いちょうホールでのトークショーやワークショップも開催した。
<b>&lt;2004(平成16)年度&gt;</b>			
5/21-7/4	アフリカ動物絵画展	4,225名	アフリカの現代画家が動物たちを描いた絵画を展示。鮮やかな色彩の楽しい絵で、子どもから大人までを楽しませた。
10/29-1/16	開館1周年記念 シャガール展	7,581名	現在、世界中で最も愛されている画家の一人、シャガールの油彩画や版画を紹介した。

開催日程	名称	入場者数	概要
<b>&lt;2005(平成17)年度&gt;</b>			
7/29-9/19	たむらしげるの世界展	5,841名	日本を代表する絵本・アニメーション作家の透明で幻想的な作品展。絵本の原画や映像作品で紹介した。
2/3-3/26	夢二の夢展	8,280名	ギャラリートークや弦楽・声楽コンサート、お茶会などのイベントや託児サービス、着物割引などを行った。
<b>&lt;2006(平成18)年度&gt;</b>			
7/28-9/18	安彦良和原画展	9,061名	ガンダムのキャラクターデザイン等で知られる作家のマンガ家、アニメーション作家としての活動を紹介した。
9/29-12/10	市制90周年記念現代日本画名作展	7,667名	文化勲章作家を中心に巨匠たちの世界を紹介。知名度の高い画家たちが来館者を楽しませた。
<b>&lt;2007(平成19)年度&gt;</b>			
4/5-5/20	クレバス画名作展	5,240名	身近な画材を使って描かれた巨匠たちの作品を紹介。ワークショップやギャラリートークも行った。
7/20-9/17	ますむらひろしの世界展	7,661名	マンガ家の創作世界を紹介。ますむらひろし・よしもとばなな対談講演会、サイン会などを開催した。
<b>&lt;2008(平成20)年度&gt;</b>			
4/4-5/25	日本近代洋画への道 —高橋由一から藤島武二まで—	5,247名	笠間日動画廊に寄贈された山岡コレクションを中心に、近代洋画の礎を築いた画家たちの名品を紹介した。
7/18-9/15	タツノコプロの世界展	9,724名	世界に誇るアニメ制作集団の展覧会。貴重な原画と資料で創作へのこだわりと情熱を紹介した。
<b>&lt;2009(平成21)年度&gt;</b>			
7/17-9/6	大河原邦男のメカデザイン	10,551名	日本アニメにおけるメカニックデザイナーの初の大規模展。デザイン画や実大模型に多くのファンが来館した。
9/18-11/8	魯山人の宇宙 美と食 北大路魯山人の陶芸	6,711名	食通として知られ、陶芸や書、絵画など幅広い分野で活躍した作家の個性的な陶芸を中心に紹介した。
<b>&lt;2010(平成22)年度&gt;</b>			
7/16-9/5	押井守と映像の魔術師たち	9,312名	アニメーションや映像で国内外から高い評価を得ている監督とスタッフの仕事や資料、設定画、造形物で紹介した。
11/26-1/23	水木しげるの世界 ゲゲゲの展覧会	9,452名	「ゲゲゲの鬼太郎」で知られる国民的漫画家、水木しげるの作品世界を代表作の鬼太郎をはじめとしたキャラクターのほか、全国の妖怪を描いたシリーズを紹介した。
<b>&lt;2011(平成23)年度&gt;</b>			
9/16-11/23	土門拳の古寺巡礼	9,950名	ドキュメント、人物、古美術、建築、風景、そのいずれにも忘れたい作品を残し、日本の写真史に巨歩を踏んだ写真家のライフワークとなった『古寺巡礼』の魅力を紹介した。
2/10-3/25	加藤久仁生展	7,230名	アカデミー賞短編アニメーション賞を日本人として初めて受賞した作家の初個展。受賞作と新作の上映も行った。
<b>&lt;2012(平成24)年度&gt;</b>			
9/14-11/11	オールドノリタケのなかの女性たち	5,391名	洋食器・陶磁器の老舗メーカー「ノリタケ」が1920年代を中心に生産した、当時のファッション雑誌に見られるような女性を描いた絵皿や小物入れ、フィギュア等を紹介した。
2/1-3/24	大正ロマン昭和モダン展 竹久夢二・高島華宵とその時代	7,981名	大正から昭和にかけて活躍した画家たちの挿画、日本画、版画、装丁本などを紹介した。
<b>&lt;2013(平成25)年度&gt;</b>			
7/12-9/1	チェブラーシカとロシア・アニメーションの作家たち	12,165名	ロシアの国民的キャラクターであるチェブラーシカの絵本やアニメーション等を紹介した。
9/13-11/24	ムットーニワールド からくりシアターⅢ	7,916名	夢美術館で過去に人気を博した自動人形からくり箱の制作者ムットーニ氏の作品を紹介する展覧会の第3弾。代表作だけでなく、新作も紹介した。作家本人の上演会には多数が参加した。

#### 4. 公立美術館としての使命

日本に初めて公立の美術館ができたのは、1951（昭和26）年の神奈川県立近代美術館（鎌倉市）である。その後、各自治体が競い合うようにして公立美術館を建設していった。公立美術館は、地域住民の税金によって成り立つ美術館として、常に住民のことを考えて事業を行っていかねばならない。今後高齢化がさらに進んでいく中で、生涯学習の一環として芸術文化の果たす役割が期待されているが、身近な公共文化施設としての美術館は市民の文化活動の振興を図る幅広いジャンルの展覧会を開催し、様々な需要に応える必要がある。美術館には社会教育の場としての義務と責任があり、地域住民に何らかの良い影響を与える事業を行うことが使命となっている。

##### （1）利用者の満足度を高めるために

夢美術館では、年に1～2回、満足度調査を行うほか、年間を通してアンケート調査を実施している。展覧会ごとの来館者の年齢層や嗜好などを把握して以降の展覧会企画に反映させるとともに、施設管理や受付等のサービス向上にも役立てている。また、廊下には、全国各地の展覧会ポスターを掲示し、稀に見る量として来館者に喜ばれている。これにより、夢美術館では展示が困難な大型作品や文化財の展覧会に関する情報が来館者に届くこととなり、それらの

鑑賞を希望する方へのサービスとなっている。

さらに、誰もが気軽に美術鑑賞できる美術館としてバリアフリーにも取り組んでおり、養護学校や介護施設等の団体を積極的に受け入れ、車椅子の無料貸し出しも行っている。その他にも、市民が参加できる公募展（夢美エンナーレ）を隔年で開催するなど、利用者に寄り添い、満足度を高めるための試みを実施している。

### **（２）夢美術館をもっと知ってもらうために**

現在、夢美術館では展覧会の年間スケジュールを載せたパンフレットや特別展ごとのポスター、チラシを作成し、周知を行っている。また、ホームページや市の広報、指定管理者の財団の情報紙を活用した情報提供や、マスメディア、地元メディアを利用したPR活動も行っている。そして何よりも、特色ある展覧会を開催することにより、新聞やテレビ等で紹介してもらえるよう、知恵を絞るとともに、報道機関へと働きかけている。アンケート調査によれば、夢美術館はまだまだ地域住民によく知られているとは言い難いため、今後ますますPR活動に力を入れていく必要がある。

### **（３）特別展に込めた思い**

夢美術館では、国内外の絵画や版画、陶磁器、アニメーションなど多彩なテーマを掲げて特別展を開催し、大人から子どもまで幅広い層が芸術に親しむための空間を提供してきた。特徴のひとつに、時代の流れを敏感に捉えた試みとして、アニメーションや漫画の展示も複数回にわたって行ってきた。こうした特別展を行うにあたって、夢美術館が留意しているのは「アニメーションや漫画を文化として捉え、作家や製作者の作品そのものを展示する」ということである。現代では美術品として鑑賞されている浮世絵も、作られた当時は美術品というよりも庶民の娯楽の一つであった。夢美術館では、現代日本の代表的な娯楽であるアニメーションや漫画などを特別展等で取り上げることで、若い世代を含めた様々な年齢層が美術館に興味をもつ機会を増やすとともに、「現代の浮世絵」を美術という切り口から紹介している。

### **おわりに**

従来型の美術館は、まちおこしの核としての考えをもとに、まず大きな建築物を建てて徐々に収蔵品を買い揃え、寄贈を受けて内容を充実させていくというものであった。夢美術館は、既存の建物を最大限利用しようとするところから出発している。美術館としては不利な条件が多々あったにもかかわらず、開館10周年を迎えることができたのは、その不利な条件を真摯に受け止めて、常に前向きに取り組んできたこと、そして支えて頂いた市民の方々の「わがまちの美術館を愛していこう」という思いであった。

今後も、夢美術館の指定管理者として運営管理を着実にやっていくとともに、市民の皆さまが誇れる美術館、自慢できる施設・展示を目指していきたい。そのためには、調査・研究を怠ることなく収蔵品を最大限に活用しつつ、また魅力ある特別展を開催していかなければならないと考えている。

**（いとう ゆみこ）**